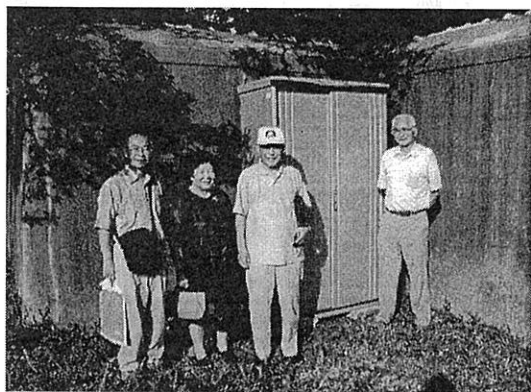


# 事務局報告

## 黒田家墓所に 水道施設完成

福岡藩主であった黒田家の墓所は菩提所崇福寺の境内にあり、その面積は約1200坪あります。毎年8月4日の黒田長政公のご法要の前には黒田奨学会と藤香会で墓地内の掃除をしています。昨年は7月14日に奨学会が、おもに草刈りを、8月2日に藤香会の理事の手で墓前の清掃をしました。

これまで掃除で苦労したのがお花立てや水鉢、敷石などを洗う水のことでした。墓地から水道管の来ている場所までが遠かったのです。水道設置は長年の懸案でしたが、昨年の春、崇福寺のご理解もあって急に藤香会の方で水道を引く話がまとまりました。工事がはじまると、本会の篠原カズ工理事からホースなどの清掃用具収納ロッカー寄贈の申し出があり、恒例の墓所掃除直前の7月28日、水道施設とその設置記念板が完成、それに清掃用具収納ロッカーもえ付けが終了しました。油照りの墓掃除ももう大丈夫です。



清掃用具収納ロッカーの前で

このほかには浮世に思い残すことはない。  
辞世の詠  
此のほどはうき世の旅に  
まよひ来て今こそかへれ  
あんならくの空  
三七四回忌のご法要は八  
月四日午前十一時から、黒  
田家の菩提所崇福寺本殿で  
営まれます。  
読経について藤香会の



会場いっぱいの勉強会

力で頑張りましたが、残念ながら一歩及ばず新人吉田宏氏に席を譲ることになりました。  
これまで山崎市長には、郷土愛のバックボーン・心の拠り所・そして観光



副会長 中島 敏行

## 新福岡市長に寄せる

藤香会会長でもある山崎広太郎氏の三期目の市長当選をめぐり、会員一同全力で頑張りましたが、残念ながら一歩及ばず新人吉田宏氏に席を譲ることになりました。

のシンボルとなる天守閣を、ぜひ、あの広大な福岡城址に実現できるようなそのレール敷きを強く要望していたところでした。  
吉田新市長にも、現在の元氣ある福岡の基礎づくりをされた黒田家始祖・如水公、藩祖・長政公、そして歴代藩主のご遺徳を顕彰し、貴重な歴史遺産を後世に継承すべく、地道な活動をしている藤香会の平素の努力をご理解くださり、夢の天守閣実現への道を拓いていただくと切望してやみません。また、将来を担う子どもたちのために、誇りをもって郷土の歴史を語れる施策をお願いしたいと思います。



# 藤香会だより

第2号  
平成19年1月1日発行  
発行者  
藤香会事務局  
092-541-8268  
発行責任者  
中島 敏行

## 長政公三二八二回忌

### ご法要はしめやかに

黒田藩初代藩主黒田長政公は元和九年(一六二三) 閏八月四日、京都報恩寺で五五歳の生涯を閉じられました。

『黒田家譜』は長政公の死が近まったころの様子を、およそ次のように記述しています。

七月、江戸から京都に上られたが、すでに江戸に在られたときから胸痛の病があり、まわりの者には死に臨んで残念なことが三つあると洩らしてあった。

一つには慈母に先だつて死すること。これは不幸である。

二つには嫡子の忠之が今なお弱冠で、長じて国を治めるのを見ずに死すること。

三つには自分は幼年から戦に出て、関ヶ原の陣にいたるまで多くの戦功をたてたが、その間は小身で、これは

なかつた。  
しかし大國を賜つたいま、自分が二万の兵の將であれば、日ごろから兵を訓練し、戦いのぞんで自分の意のままに兵を動かすことができないうことであろうか。一度はやってみたいと思うことである。

参会者五五名は長政公のご画像を拝し仏前に香をたきました。このあと来会者は導師に従い本堂裏手の黒田家墓所に移り、墓前焼香をして長政公のご遺徳を偲びました。

## 第二回勉強会のテーマは

### 「福岡城天守と光雲神社」でした

九月二日(土) 鳥飼八幡宮参集殿を会場に本会の荻野忠行理事が講師をつとめ、参加者四八人が熱心に聞き入りました。

話は、来年光雲神社が西公園遷座一〇〇年を迎えるのを機に当神社の福岡大空襲による被災など、エピソードをまじえておよそ一世紀の変遷がたどられました。また天守閣については、これまでの通説と最近の資料による新説が紹介され、「天守閣は一時期、確かに存在した」という講師の自説が披露されました。なお勉強会のなかで青柳隆会員が黒田藩に關連する個人収集の鯨瓦・大水中兜・槍などの実物を紹介され講演の内容が一層理解できました。

# 江戸黒田藩邸をめぐる二日間の旅

会員 平田 善積

参勤交代の制度があった江戸時代、全国の各大名は江戸城を囲むように自藩の藩邸を持っていました。黒田藩の場合、霞ヶ関に上屋敷、赤坂に中屋敷があり、下屋敷は渋谷と白金にありましたので、藩邸は合わせて四か所あったこととなります。

かねがね江戸藩邸のことが知りたかった私は、「NPO福岡市民の会」の「藩邸めぐり」の企画を聞いて早速申し込みました。東京での私たち「旅の一行・二〇名」は九月二十九日と三十日の両日も、高曇りの好気象にめぐまれ、快適な史跡散策を堪能することができました。

一日目は外省の建物が林立する上屋敷跡を重点に、現在衆議院議員宿舎建設中の中屋敷一帯を探访し、午後には靖国神社に参拝し、遊就館の見学で予定のコースを終わりました。

その夜ホテルでは、黒田藩第十六代の黒田長高様をお迎えして、ご当地東京の「NPO江戸城再建を目指す会」の代表・太田道灌公第十八代ご当主太田資曉様はじめ四名の方々と福岡の一行、あわせて二五名で黒田長高公を囲む懇親会が持たれました。

二日目は下屋敷跡を訪ねたあと「江戸城再建を目指す会」主催による「皇居東御苑散策ゼミ」に参加しました。思い出せば、ほかにも隅田川ライオン下りなど、キリがありません。自分の目と足で黒田藩の歴史の一端にふれえた感銘の旅でした。

## 06 秋の史跡めぐり 参加者55名



今年度は久々の徒歩による半日の福岡市内城下町の史跡めぐりとなりました。

好天の10月21日(土)午後1時、光雲神社での山崎広太郎藤香会会長の出発のあいさつで始まり、午後4時30分、圓應寺本堂でお茶とお菓子をいただき、黒田藩関係史跡の現地学習は心地よい疲れとなごやかなかに終ることができました。

コースは西公園周辺地区を範囲とし、光雲神社一加藤司書銅像跡・司書詩碑一吉岡友愛大佐銅像跡一徳富蘇峰詩碑一万葉歌碑一立帰天満宮一平野国臣銅像一貝原益軒屋敷跡、圓應寺の順で快適なウォーキングも楽しみました。

## 会員クリック



今回は筑前琵琶福岡旭会会長の中村旭園師をクリックして一文を寄せていただきました。先生は昨年「筑前琵琶七十五年」を迎えられました。先生の伝統芸能の継承発展にける情熱はおのずとあたりに迫ってくるものがあります。(写真：福岡義士隊の(中村旭園師))

私は一人娘で両親から溺愛され、その両親の希望で当時名人と云われた高野旭嵐師に七歳で琵琶を習いました。親孝行と思つて習つた琵琶は、当時の福岡放送局(現在FM80.2)から優秀な少女といわれ、十三歳で教師免状を頂き、両親は有頂天になりました。戦中、戦後の十年位は混沌とした世の中で芸事はされず、四十歳から六十歳位迄、県、市、外務省等の指示で演奏し、その為かあちこち文化使節として皇居にての叙勲等、身に余る光栄に浴しました。これも藤香会の皆様方の温かいご支援の賜であると深く感謝しております。有難うございました。

新春をむかえ「藤香会だより・第2号」をお届けします。本誌2回の編集をしていて、その紙面の窮屈さに苦しんでいます。今回は中村・島野の両氏に字数を最低限にしぼって原稿をおねがいしましたが、次号からも何とか紙面を工夫して一般会員の寄稿をお願いしたいと考えています。よろしくお願います。

## 播磨の黒田武士 頭彰会が来福



“姫路お城まつり”で 馬上の黒田長高様

黒田家始祖黒田官兵衛孝高公由縁の姫路市では毎年八月の第一金曜日と土曜日の二日間にわたって「お城まつり」が催されています。昨年「播磨の黒田武士頭彰会」が「第五十七回姫路お城まつり」で黒田二十四騎播州里帰りパレードを行いました。ご当地では、「官兵衛さん」と敬愛されている如水公には黒田藩主第十六代長高様がゆかりの赤合子兜の武者姿で馬上の将に扮されました。パレ

十月六日、野分の余波で秋冷えの強い風のなか、名月は叢雲のあい間に冴え渡りました。城内に四七の櫓があった時代、天守台の脇に月見櫓がありました。東の山の端から立花山の稜線沿いに昇ってくる名月を賞でるに格好の場所でした。「宴」の会場も本丸跡の鴻臚館跡、そして今年黒田藩福岡城能楽堂跡と替りましたが、琵琶の音、琴の音を聴き、鼓の音が酔いながら眺める荒城の月はまた格別の趣があります。(藤香会および市民の会会員 島野均)

ードには藤香会から二名が参加しました。このお城まつりから二か月後の十月七日・八日、こんどは播磨の黒田武士頭彰会の十四名が福岡の黒田歴史探訪に来福され、案内役は当会の中島敏行副会長ほか三名がつとめました。まず福岡市内の崇福寺・東長寺・福岡城址・光雲神社・福岡市博物館をまわり、そのあと秋の筑紫路をくだって太宰府天満宮で如水公の井戸に寄り、九州国立博物館見学で予定の行程を終りました。始祖を同じくする播磨と筑前の絆を実感した交流の場でした。(荻野)

## 私の九十年の人生

藤香会 中村旭園

## 編集後記

新春をむかえ「藤香会だより・第2号」をお届けします。本誌2回の編集をしていて、その紙面の窮屈さに苦しんでいます。今回は中村・島野の両氏に字数を最低限にしぼって原稿をおねがいしましたが、次号からも何とか紙面を工夫して一般会員の寄稿をお願いしたいと考えています。よろしくお願います。